



AIってなあに？

◆自発的に「推論」「学習」

ブン子さんは、北陸経済研究所（富山市）の辻野秀信主任研究員に聞いてみました。

Q－どんな意味かしら。

A－AI（人工知能）とは、人間が指示を与えなくても論理的な推論をしたり、経験から学習したりするコンピュータープログラムです。車の自動運転や対話型のロボットなどで最近よく登場します。「推論」と「学習」の二つがポイントです。



Q－AIは囲碁のチャンピオンにも勝ったんだって。なぜ急に強くなったの。

A－これまでは人間がすべてを機械に教え込まなければ、答えを返してくれませんでした。ところが、ディープラーニング（深層学習）と呼ばれる方法によって、たくさんのデータの中から何パターンもの特徴を見つけ出し、「推論」と「学習」を自発的に重ねることでAIの理解力が増したのです。

Q－県内でどう活用されているの。

A－ビッグデータと呼ばれる膨大なデータ蓄積を活用しAIの能力を向上させている例は県内にもあります。富山市民病院の病理診断科では、がん患部の類似画像検索にAIを使い、病理診断への準備を進めています。病理画像をデータ保存している病院は全国的にも少なく、富山市民病院が持つ4万5千件もの症例データがAIの学習に役立っています。

Q－県内企業は業務にどう生かそうとしているの。

A－北陸銀行は県内企業としてはいち早く、人間の情緒的な機微を理解するAIの実証実験を開始しました。数十万件に及ぶ大量の営業活動記録をAIが分析し、顧客本位を目指す営業体制を強化していく考えです。また朝日印刷は、業界に先駆けて人工知能を搭載した印刷機を導入する計画です。5万点の過去の作業データからAIが学習し、最適な印刷用紙の種類やインク量などの配分を自動調節します。

共通するのは、人間が見るには困難な大量のデータから解決策を探し、仕事を助けてくれる点です。AIは人々の生活をサポートするだけでなく、働く場面での活躍が期待されています。